

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイリティ試聴会報告(2016.4.2)

河口無線で開催された B&W802D3 の試聴会に行ってきました。

<使用機材>

以下のようなラインアップで試聴会が計画されました。



スピーカー：B&W 802D3 805D3

SACD プレーヤー：マランツ SA-11S3

プリアンプ：ヴィオラ カデンツァ

パワーアンプ：ヴィオラ シンフォニー

<試聴の経過>

輸入元 D&M ホールディングスのマランツサウンドマネージャー澤田氏の進行で試聴が進められました。B&W の新製品 802D3 は、過去の試聴会 ([テクニカルブレイン TBC-ZERO-EX2](#)、[METECH Joplin MK II](#)、[ラックス E-250](#)) でも使われましたが、B&W 802D3 に焦点を当てた試聴会は初めてです。802D3 の前に、805D3 も聴く機会があり、試聴の合間に仕様について詳しい説明がありましたが、説明内容はまとめて記載します。



写真は当日のセッティングですが、途中から 805D3 から奥にある 802D3 に接続替えて試聴が行われました。

試聴会に入る前に 805D3 でボーカルがかかっていたのですが、スピーカーの存在を感じさせず、残響感たっぷりでソフトな印象を受けました。

試聴会が始まって最初の曲はベースとボーカルでしたが、低音のクオリティが向上していることが分かりました。さらに宮沢明子のサティのピアノ、新日本フィルのホルベアの時代のいずれも最新録音がかかりましたが、演奏の問題なのか、録音の問題なのか、音はクリアーで透明度は高いものの、生演奏のわくわくするような躍動感に少し不満が残りました。

ここで 805D3 から 802D3 へのつなぎ替えがあり、再度ホルベアの時代がかかりましたが、さすがにスケール感が向上し、低域のクオリティも向上し、中高域もしなやかな鳴り方になりました。

後述のウーファアの説明の後、ベース 3 人の曲がかかりましたが、前シリーズのような膨らみ感がなく、引き締まって緩みのない低音が聴けました。

この後、ワルツフォーデビィの SACD と DSD 録音のチェンバロがかかりましたが、ワルツフォーデビィの録音時期を感じさせない新鮮味に比べて、チェンバロは音量が実演奏より大きすぎて判断できませんでした。逆に先のホルベアはもう少し生演奏に近い音量に上げ、うるさくなく聴けるかどうか知りたいと感じました。

この後、グレングールドのゴールドベルグ、テクノポップ、ビートルズ、小沢が振ったグラミー賞を取ったオペラ、JAZZ のマスターから起こした CDR、森山良子のガラス CD とかけられていきましたが、グレングールドはうなり声ははっきりハミングのように聴けましたし、テクノポップは切れがよく、ビートルズと森山良子は声の質感が良くでており、オペラはステージ感と声と楽器の質感がよく、JAZZ の CDR は近接録音でのリアルさがよく出ていました。総じて選曲がスピーカーの特性をモニターできるようなものでしたが、どこのメーカーの試聴会でもクラシックに関してはデモ効果を狙ったものではなく、もう少し音量の選択も含めて音楽を楽しめるようなものであってほしいと思います。

以下に新シリーズの技術的な説明をまとめますが、最初に B&W のスピーカーの歴史とマランツが取扱いを始めた経緯の話と前シリーズからの改良点の説明がありました。実際のところ、前シリーズから変わっていないのはダイヤモンド振動板とターミナルだけということで、868 点の仕様変更があり、事実上新製品ですが、ネーミングだけは残したということです。このために 3 億円の設備投資を行い、売れゆきが良いのでさらに 7000 万円の追加投資をしたということでした。

ミッドバスのコーンは伝統のケプラーを止め、新規に起した素材でアルミ蒸着を行い、ピストンモーションから分割振動が始まるところが分からなくなるくらいの結果を得ているとのことでした。キャビネットに関しては、中の井桁の補強材の板厚が倍に

なっているようで、ウーファーは以前のカーボンファイバーで発泡樹脂を挟んだものから、カーボンファイバーでマイクロな樹脂球を固めて挟み、中心から外側に向かって厚みを薄くなるように変えているとのこと。このことによって 20Hz の歪率が 5%からこれまで最少のノーチラスの 3%を超えて 1%まで減っているとのこと。マグネットについてはネオジウムマグネットですが、磁力と耐熱性が相克するので、いくつかのグレードがあるものの中からの選択で、これまで一律のグレードであったものが、ウーファーは耐熱性重視で、ミッドバスからツイーターになるに従い、耐熱性の必要性がなくなるので、順次磁力の強いものを選択しているとのこと。ツイーターとミッドバスのハウジングは Zn-Al 合金から、より鳴きの小さい Al 合金のハウジングに替え、ミッドバスのハウジングは共振体を入れて振動を抑える PMD という技術を取り入れているとのことでした。なお、ウーファーとミッドバスのコーンは新旧のサンプルを回覧してくれましたので説明内容が実物で確認できました。以上のようなことで最終的には重量が 72Kg から 94Kg アップし、価格も 1.5 倍になっています。

<まとめ>

前シリーズからの後継機のシリーズということでしたが、まったく新しいものという説明のとおり、斬新な技術に支えられて、音も大幅に改善されたと感じました。クラシックに関しては、デモ用ということで、日本人演奏家の最新録音がかかりましたが、もう少し演奏内容の良いソースでじっくり聴いてみたいと思いました。

【註】

ネット上に B&W 80XD3 シリーズの試聴記が出ていましたので、下記に添付しておきます。

<http://www.phileweb.com/sp/review/article/201604/01/2020.html>

以上